



**UNITED NATIONS  
UNIVERSITY**

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5 53 70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu)  
Website: <http://www.unu.edu/>

2005年5月11日  
MR/J12E/05

メディア用原稿  
非公式記録

取扱注意：5月16日（月）日本時間00：01以降使用

本件に関するお問合せは下記にお願いします。

国連大学広報部・小林（東京）03-5467-1217, [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu),

ブレンダン・バレット（東京）03-5467-1318, [barrett@hq.unu.edu](mailto:barrett@hq.unu.edu)

マイク・リード（マカオ）+853-844316、+853-6638283 (mobile)

テリー・コリンズ（カナダ）+1-416-538-8712; +1-416-878-8712 (mobile) [terrycollins@rogers.com](mailto:terrycollins@rogers.com)

ニコラス・ネグロポンテ マサチューセッツ工科大学教授、マイク・リード国連大学国際ソフトウェア技術研究所（UNU-IIST）代表及びブレンダン・バレット国連大学アカデミック・プログラム・オフィサーのインタビューを受け付けています。事前電話・e-mailインタビューは5月12日13日。対面インタビューは5月16日午前10時のネグロポンテ教授講演後京王プラザホテルにて。上記までご連絡下さい。

## MITの100ドル・ラップトップと国連大学の無料ソフトウェア プロジェクト： 子供たちが鉛筆のようにパソコンに親しめるよう 南北デジタルデバイドの懸け橋に

グローバルな教育システムではどんなに貧困な国においても生徒たちにとって携帯可能なパソコンは鉛筆や教科書のように普及していること、それがマサチューセッツ工科大学教授のビジョンである。彼は来週東京で初めて100ドル・ラップトップの大量生産へ国際社会を駆り立てる計画を発表する。

ニコラス・ネグロポンテ教授の申し子100ドル・ラップトップは、フルカラー、フルスクリーン、ラップトップで無料ライナックスシステムを使用。僻地でも利用可能な革新的電源が搭載。ワイヤレスや携帯電話でのインターネット接続可能で将来のプリンターなどの周辺機器との接続を見越して複数USBポート搭載。現在の仕様は：500メガヘルツ（プロセススピード）、1ギガバイトのメモリー、そしてXVGAディスプレイを想定。

ネグロポンテ教授は、総務省、国際電気通信連合（ITU）、国連大学の共催による東京ユビキタス会議「ユビキタスネット社会の実現に向けて」（5月16-17日、京王プラザホテル）にて、5月16日（月）に専門家たちに計画を提案する。

NEWS RELEASE

政府、国際機関、民間、市民団体の専門家たち約400人が、東京での会議と技術展示会に参加し、チュニスでの第2回世界情報社会サミット（11月16日～18日）の準備とする。このサミットの目的は全ての人に普遍的で、持続可能で、ユビキタスな、かつ手頃な料金でのICTへのアクセスを可能にする情報通信インフラを開発し、この地球上の全ての人々の情報と知識へのアクセスを可能にすることである。

「悲しいことに、コンピューターの必要性を認識するほとんどの教育システムは、一つの教室にデスクトップを何台か置き、子供たちは週に数時間ほど使用するだけ」とネグロポンテ教授は言う。「しかし、コンピュータ利用とは、自分の鉛筆のようなものでなければならない（共同で使用する鉛筆ではなく）、そして、学校や家事や仕事や遊びなどのあらゆる目的に使用されるべきである。

「このコンピューターモデルには、軽量でフル・スクリーン、フルカラーでフル接続可能なラップトップが必要となる。そのためにMIT研究所では大量生産可能な100ドル・ラップトップを開発している。最終目的は世界のもっとも貧困でもっとも僻地においても「子供一人に一台ラップトップ」が備わることである。



パナソニックのタフグックスを持ったカンボジアのリアクスの生徒たち。2001年。  
撮影：ディミトリ・ネグロポンテ

## 貧者は無料ソフトウェアも必要

国連大学は、マカオにある国連大学国際ソフトウェア技術研究所（UNU-IIST）を通じて、「オープン・コンピューティング・イニシャティブ」を進めている。その目的は途上国がコストがかからない「オープン」ソフトウェアの開発を支援することである。

UNU-IISTのマイク・リード代表は、現地のニーズに適用した無料ソフトウェアの開発の危機的かつ補完的重要性を指摘する。過去のプロジェクトで貧困地域の学校にコンピューターを寄与したものの「学校がソフトウェアを購入する資金がないためにコンピューター自体が使われていないことが発覚している」という。

「安価なラップトップと無料のソフトウェアを結びつけることは、デジタルデバイドの懸け橋への最も意味のある第一歩となるだろう。」とリード博士は言う。

UNU-IISTの「オープン・コンピューティング・イニシャティブ」では西側のソフトウェア・プログラマーはオープン・ソース・ソフトウェアに慣れていない途上国のプログラマーとの連結を図っている。このプロジェクトの目的は：

- オープン・ソース・ソフトウェアの地域適用を支援し非英語使用者が西側と同じコンピューターへのアクセスを持てるようにする
- 非英語使用者でも利用可能なローカルに必要なフォントを開発できる、完全に国際的なフォント開発ツールの創造、そして、
- 著作権無料のオープン・ソース・ソフトウェアの拡大と地域化を通して、ローカルの利用者による技術的自己決定達成のためのエンパワーを助成する。

国連大学システムには、情報社会に関連した環境問題についての調査および政策提言（国連大学センター）を行っているほか、グローバル・バーチャル大学、アジア太平洋イニシャティブ、そして国連大学水・環境・保健に関する国際ネットワーク（UNU-INWEH）によって開発されたウォーター・バーチャル学習センターなどのオンライン学習の活動がある。

ネグロポンテ教授はデスクトップはラップトップより安く作れるが、後者の移動性が重要とする。「ラップトップを家に持って帰ることは家族全員が関与することになる。私達が活動していたカンボジアの村には電気はなく、ラップトップは家で最も明るい照明でもあった」

彼は100ドル・ラップトップは高級なコンピューターと「ほとんど全てにおいて同じ」ことが出来るとするが、「できないのは大量のデータを保存すること」だという。

100ドル・ラップトップは個人には販売されず、教育省庁から配布される。初回オーダーは最低100万個。生産スケジュールとしては、来年度末か2007年の始めに発送が可能となる見込み。

なお、東京ユビキタス会議の詳細についてはこちらへ：<http://www.wsis-japan.jp>, 会議事務局（総務省総合通信基盤局国際部）TEL：03-5253-5922、[ubiquitous-jp@ml.soumu.go.jp](mailto:ubiquitous-jp@ml.soumu.go.jp)



国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として、本部（東京）を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。1975年に開設され、今年30周年を迎えました。